

エコアクション21

環境経営レポート

2022年度

2022年9月1日～2023年8月31日

2023年12月 改訂

株式会社野生動物保護管理事務所

目次

1. 組織の概要.....	2
2. 対象範囲・環境経営実施体制表.....	3
3. 環境経営方針.....	5
4. 基準年の環境負荷と環境経営目標.....	6
5. 環境経営計画・環境経営目標の実績及び環境経営計画の取組結果と その評価並びに次年度の取組内容.....	10
6. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反・訴訟等の有無.....	16
7. 代表者による全体評価と見直しの結果.....	17

1. 組織の概要

(1) 対象事業所及び代表者氏名

株式会社野生動物保護管理事務所

代表取締役 奥村 忠誠

環境経営責任者	加藤 洋 (EA 担当役員、関西支社副支社長)
環境経営担当者	小黒 大貴 (全社)

① 事業所名：本社（調査事業部・計画策定支援室・遺伝情報解析室・総務部）

所在地：東京都八王子市小宮町 922-7

(2019年9月1日 町田市より事業所移転)

環境経営責任者	加藤 洋 (EA 担当役員、関西支社副支社長)
調査研究部門責任者	奥村 忠誠 (本社事業部長)
環境経営担当者	三井 夏紀
連絡先	電話：042-649-1385 E-mail：kato@wmo.co.jp

② 事業所名：関西支社

所在地：兵庫県神戸市北区有野町有野 3457-1

環境経営責任者	加藤 洋 (EA 担当役員、関西支社副支社長)
調査研究部門責任者	中川 恒祐 (関西支社長)
環境経営担当者	井ノ口 直美
連絡先	電話：078-982-3340 E-mail：kato@wmo.co.jp

③事業所名：広島事業所

所在地：広島県尾道市高須町 1095-70

環境経営責任者	加藤 洋 (EA 担当役員、関西支社副支社長)
調査研究部門責任者	清野 紘典 (広島事業所長)
環境経営担当者	檀上 理沙
連絡先	電話：078-982-3340 E-mail：kato@wmo.co.jp

(2) 事業活動の内容

- ・野生鳥獣の保護管理に関する基礎調査
- ・野生鳥獣の被害防除に関する基礎調査
- ・野生鳥獣保護管理事業に関するコンサルタント

(3) 事業の規模

売上高：9.94 億円 (2022 年度)

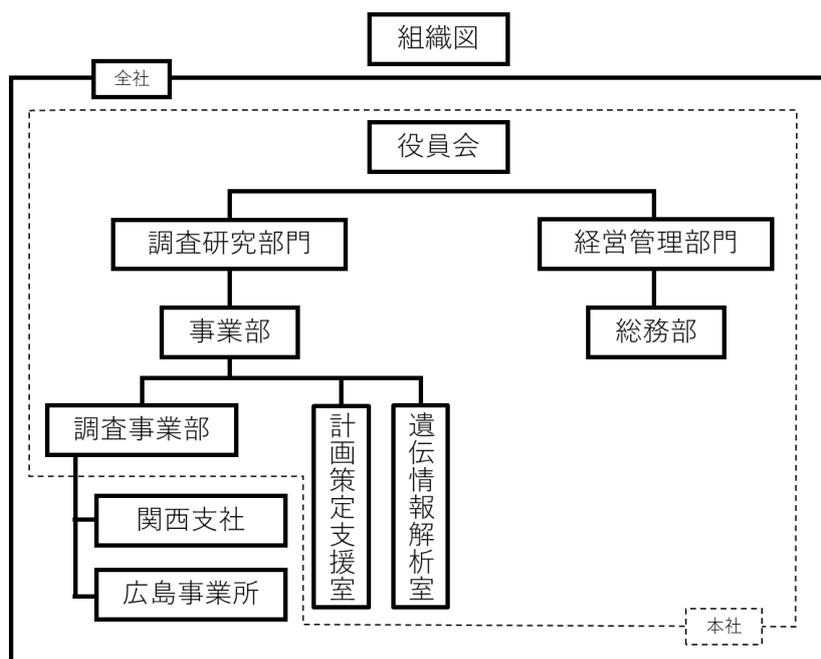
会計年度：当該年度 9 月～翌年 8 月

	本社	関西支社	広島事業所
従業員数 (人)	44	22	5
延床面積 (㎡)	668.4	318.94	139.13
売上	6.42 億円	3.52 億円	—

2. 対象範囲・環境経営実施体制表

(1) 認証・登録対象組織

全社・全組織

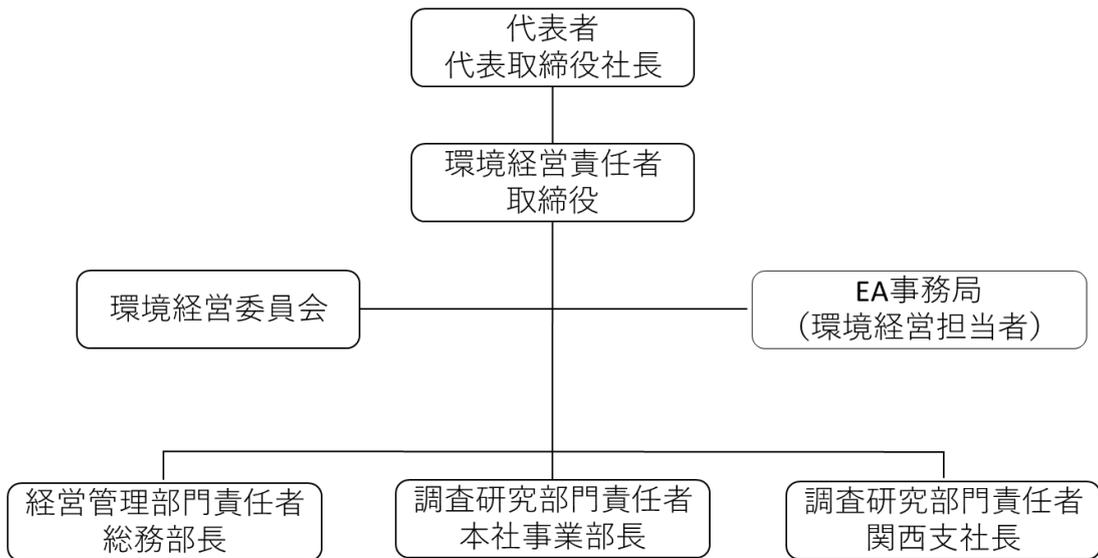


(2) 認証・登録対象活動

- ・野生鳥獣の保護管理に関する基礎調査
- ・野生鳥獣の被害防除に関する基礎調査
- ・野生鳥獣保護管理事業に関するコンサルタント

(3) 環境経営実施体制表

環境経営実施体制表



役割	責任および権限
代表取締役	1. 経営における課題とチャンスの明確化 2. 環境経営責任者の任命 3. 環境経営方針の制定 4. 環境経営システムの実施および管理に必要な資源の準備 5. 環境経営システムの定期的見直しの実施 6. 社内情報の外部公開可否決定 7. 効果的で必要十分な実施体制を構築する 8. 実施体制においては、各自の役割、責任及び権限を定め、全従業員に周知する。
環境経営責任者	1. 環境経営システムの確立、実施、維持、継続的改善 2. 代表取締役への環境経営システムの実施状況報告 3. 諮問機関である環境経営委員会の委員長として委員会の運営 4. 推進機関であるEA21EMSの事務局の責任者として事務局運営 5. それぞれの業務・役割に応じ、必要な教育訓練を適切に計画・実施 6. 関連法規のとりまとめ表の維持管理、遵守徹底 7. 環境関連文書及び記録の作成・整理
EA21事務局	1. 環境経営責任者の補佐
環境経営委員会	1. 環境経営計画の審議 2. 環境経営実績の確認・評価
部門責任者	1. 環境経営システムの方針、実施計画を自部門で実施、維持、継続的改善 2. 環境上の緊急事態への準備及び対応
従業員	1. 環境活動計画に基づく各種取組の実施

3. 環境経営方針

株式会社野生動物保護管理事務所の環境経営方針

基本理念

株式会社野生動物保護管理事務所は、生物多様性条約の理念にのっとり、野生動物の保護管理を推進するために活動しております。人口減少時代に向かう中、野生動物と人の軋轢がますます増大していくことから、様々な課題に合理的かつ積極的に対処することを通して持続可能な社会づくりの一端を担ってまいります。さらに、温暖化をはじめとする、人間活動による地球環境全体への影響は、野生生物にも少なからず影響が及んでいる現状があることから、自らの事業運営にあたっては、環境に配慮し、自然共生社会の実現に貢献してまいります。

環境方針

1. 環境関連法規制を遵守します。
2. 電気・水道水・電力及び燃料使用の省エネルギーに取り組み、二酸化炭素排出量の削減を推進します。
3. 事業活動に伴う廃棄物の削減に努め、再使用、再生利用の推進に努めます。
4. 事業活動に伴う薬品の適切な使用・保管・廃棄に努めます。
5. グリーン購入を積極的に推進します。
6. 「事業継続力強化計画」に基づいて防災・減災に取り組みます。
7. 事業活動を通じて、生物多様性保全の推進に努めます。

令和4年9月1日制定

株式会社野生動物保護管理事務所

代表取締役 濱崎伸一郎

4. 基準年の環境負荷と環境経営目標

① 全社

環境目標		単位	基準年=2021年度		年度目標		中期目標						原単位の分母		
			2021年度 (令和03年9月1日～令和04年8月31日)	2021年度(令和03年9月1日～令和04年8月31日) 出社勤務人日数 6891	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度				
					2022年9月～2023年8月		2023年9月～2024年8月		2024年9月～2025年8月		2025年9月～2026年8月				
					削減目標		削減目標		削減目標		削減目標				
原単位換算		実績値	原単位換算	実績値	原単位換算	実績値	原単位換算	実績値	原単位換算						
1	排出量の削減 二酸化炭素	① 電気使用量の削減 (前年度比2%削減)	kWh	76,741	11.1	75,206	10.9	73,702	10.7	72,228	10.5	70,783	10.3	出社勤務人日数	
		(kg-CO2)	33,431	4.9	32,763	4.8	32,107	4.7	31,465	4.6	30,836	4.5			
		② ガソリン使用量の削減 (前年度比1%削減)	L	49,313	-	48,819	-	48,331	-	47,848	-	47,369	-		-
		(kg-CO2)	114,502	-	113,357	-	112,224	-	111,102	-	109,991	-	-		
		燃費(1%増)	中型	km/L	-	-	-	-	-	-	-	-	-		-
	普通	km/L	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	軽	km/L	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	③ 二酸化炭素総排出量の削減	(kg-CO2)	147,934	-	146,120	-	144,331	-	142,567	-	140,826	-	-		
2	廃棄物排出量の削減	① 一般廃棄物排出量の削減 (前年度比3%削減)	kg	3,423	0.50	3,320	0.48	3,221	0.47	3,124	0.45	3,030	0.44	出社勤務人日数	
		② 産業廃棄物排出量の削減 (前年度比1%削減)	kg	2,306	-	2,283	-	2,260	-	2,238	-	2,215	-	-	
3	水の使用量の削減 (前年度比2%削減)	m3	420	0.061	412	0.060	403	0.059	395	0.057	387	0.056	出社勤務人日数		
4	コピー紙使用量の削減 (前年度比2%削減)	kg	442	-	433	-	425	-	416	-	408	-	-		
5	製品及びサービスに関する項目(環境配慮) (前年度比1%増)	受託業務件数	192	-	194	-	196	-	198	-	200	-	-		

※本社購入電力(東京電力)の二酸化炭素排出係数:kg-co2/kWh。令和4年度の温室効果ガス排出量を算定する際に用いる係数です(報告は令和5年度)。

※関西支社購入電力(関西電力)の二酸化炭素排出係数:令和2年度の電気事業者ごとの基礎排出係数・調整後排出係数等の公表について「報道発表資料」環境省(env.go.jp)kg-co2/kWh。令和4年度の温室効果ガス排出量を算定する際に用いる係数です(報告は令和5年度)。

※広島事業所購入電力(中国電力)の二酸化炭素排出係数:kg-co2/kWh。令和4年度の温室効果ガス排出量を算定する際に用いる係数です(報告は令和5年度)。

※本社、関西支社LPG使用なし

※燃費は社員が給油時に記録とったものであるが、記録漏れ等の理由によりガソリン使用量の総計と数字が完全に一致しない場合がある

重点目標

※1②ガソリン使用量の削減(燃費)については、各事業所単位の目標設定とした

② 本社

環境目標		単位	基準年=2021年度		年度目標		中期目標						原単位の分母	
			2021年度 (令和03年9月1日～令和04年8月31日)	2021年度 (令和03年9月1日～令和04年8月31日)	2022年度 2022年9月～2023年8月		2023年度 2023年9月～2024年8月		2024年度 2024年9月～2025年8月		2025年度 2025年9月～2026年8月			
					削減目標		削減目標		削減目標		削減目標			
					原単位換算		実績値	原単位換算	実績値	原単位換算	実績値	原単位換算		実績値
1	排出量の削減 ①	電気使用量の削減 (前年度比2%削減)	kWh	49,831	9.8	48,834	9.6	47,858	9.4	46,901	9.2	45,963	9.1	出社勤務人数
		(kg-CO2)	22,274	4.4	21,829	4.3	21,392	4.2	20,964	4.1	20,545	4.0		
		ガソリン使用量の削減 (前年度比1%削減)	L	16,958	-	16,788	-	16,621	-	16,454	-	16,290	-	
	(kg-CO2)	39,375	-	38,981	-	38,591	-	38,206	-	37,823	-			
	②	燃費 (1%増)	中型	km/L	所有なし	-	-	-	-	-	-	-	-	
		普通	km/L	10.68	-	10.78	-	10.89	-	11.00	-	11.11	-	
軽		km/L	13.81	-	13.94	-	14.08	-	14.22	-	14.37	-		
③	③ 二酸化炭素総排出量の削減	(kg-CO2)	61,649	-	60,810	-	59,983	-	59,170	-	58,368	-		
2	廃棄物排出量の削減 ①	一般廃棄物排出量の削減 (前年度比3%削減)	kg	3,058	0.60	2,966	0.58	2,877	0.57	2,791	0.55	2,707	0.53	出社勤務人数
		②	産業廃棄物排出量の削減 (前年度比1%削減)	kg	2,294	-	2,271	-	2,248	-	2,226	-	2,204	
3	水の使用量の削減 (前年度比2%削減)	m3	125	0.025	123	0.024	120	0.024	118	0.023	115	0.023	出社勤務人数	
4	コピー紙使用量の削減 (前年度比2%削減)	kg	280	-	274	-	269	-	264	-	258	-	-	
5	製品及びサービスに関する項目(環境配慮) (前年度比1%増)	受託業務件数	60	-	61	-	61	-	62	-	62	-	-	

※本社購入電力(東京電力)の二酸化炭素排出係数:kg-co2/kWh。令和4年度の温室効果ガス排出量を算定する際に用いる係数です(報告は令和5年度)。

※関西支社購入電力(関西電力)の二酸化炭素排出係数:令和2年度の電気事業者ごとの基礎排出係数・調整後排出係数等の公表について | 報道発表資料 | 環境省 (env.go.jp/kg-co2/kWh)。令和4年度の温室効果ガス排出量を算定する際に用いる係数です(報告は令和5年度)。

※広島事業所購入電力(中国電力)の二酸化炭素排出係数:kg-co2/kWh。令和4年度の温室効果ガス排出量を算定する際に用いる係数です(報告は令和5年度)。

※本社、関西支社LPG使用なし

※燃費は社員が給油時に記録とったものであるが、記録漏れ等の理由によりガソリン使用量の総計と数字が完全に一致しない場合がある

重点目標

③ 関西支社

環境目標		単位	基準年=2021年度		年度目標		中期目標						原単位の分母
			2021年度 (令和03年9月1日～令和04年8月31日)	2021年度(令和03年9月1日～令和04年8月31日)	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		
				出社勤務人日数	2022年9月～2023年8月		2023年9月～2024年8月		2024年9月～2025年8月		2025年9月～2026年8月		
				1154	削減目標		削減目標		削減目標		削減目標		
原単位換算		実績値	原単位換算	実績値	原単位換算	実績値	原単位換算	実績値	原単位換算	実績値	原単位換算		
1	① 電気使用量の削減 (前年度比2%削減)	kWh	18,533	16.1	18,162	15.7	17,799	15.4	17,443	15.1	17,094	14.8	出社勤務人日数
		(kg-CO2)	6,709	5.8	6,575	5.7	6,443	5.6	6,314	5.5	6,188	5.4	
	② ガソリン使用量の削減 (前年度比1%削減)	L	32,355	-	32,031	-	31,711	-	31,394	-	31,080	-	-
		(kg-CO2)	75,127	-	74,376	-	73,632	-	72,896	-	72,167	-	-
		燃費 (1%増)	中型	km/L	7.40	-	7.47	-	7.55	-	7.62	-	7.70
普通	km/L		11.47	-	11.58	-	11.70	-	11.81	-	11.93	-	-
軽	km/L	14.63	-	14.78	-	14.92	-	15.07	-	15.22	-	-	
③ 二酸化炭素総排出量の削減	(kg-CO2)	81,836	-	80,951	-	80,076	-	79,210	-	78,355	-	-	
2	① 一般廃棄物排出量の削減 (前年度比3%削減)	kg	900	0.78	873	0.76	847	0.73	821	0.71	797	0.69	出社勤務人日数
		② 産業廃棄物排出量の削減 (前年度比1%削減)	kg	12.0	-	11.9	-	11.8	-	11.6	-	11.5	-
3	① 水の使用量の削減 (前年度比2%削減)	m3	125	0.108	123	0.106	120	0.104	118	0.102	115	0.100	出社勤務人日数
4	② コピー紙使用量の削減 (前年度比2%削減)	kg	98	-	96	-	94	-	92	-	91	-	-
5	③ 製品及びサービスに関する項目(環境配慮) (前年度比1%増)	受託業務件数	132	-	133	-	135	-	136	-	137	-	-

※本社購入電力(東京電力)の二酸化炭素排出係数:kg-co2/kWh。令和4年度の温室効果ガス排出量を算定する際に用いる係数です(報告は令和5年度)。

※関西支社購入電力(関西電力)の二酸化炭素排出係数:令和2年度の電気事業者ごとの基礎排出係数・調整後排出係数等の公表について | 報道発表資料 | 環境省 (env.go.jp/kg-co2/kWh)。令和4年度の温室効果ガス排出量を算定する際に用いる係数です(報告は令和5年度)。

※広島事業所購入電力(中国電力)の二酸化炭素排出係数:kg-co2/kWh。令和4年度の温室効果ガス排出量を算定する際に用いる係数です(報告は令和5年度)。

※本社、関西支社LPG使用なし

※燃費は社員が給油時に記録したものであるが、記録漏れ等の理由によりガソリン使用量の総計と数字が完全に一致しない場合がある

重点目標

④ 広島事業所

環境目標		単位	基準年=2021年度		年度目標		中期目標						原単位の分母
			2021年度 (令和03年9月1日～令和04年8月31日)	2021年度(令和03年9月1日～令和04年8月31日) 出社勤務人数 659	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		
					2022年9月～2023年8月		2023年9月～2024年8月		2024年9月～2025年8月		2025年9月～2026年8月		
					削減目標		削減目標		削減目標		削減目標		
原単位換算		実績値	原単位換算	実績値	原単位換算	実績値	原単位換算	実績値	原単位換算				
1	① 電気使用量の削減 (前年度比2%削減)	kWh	8,377	12.7	8,209	12.5	8,045	12.2	7,884	12.0	7,727	11.7	出社勤務人数
		(kg-CO ₂)	4,448	6.7	4,359	6.6	4,272	6.5	4,187	6.4	4,103	6.2	
	② ガソリン使用量の削減 (前年度比1%削減)	L	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		(kg-CO ₂)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		燃費 (1%増)	中型	km/L	7.40	-	7.47	-	7.55	-	7.62	-	7.70
	普通		km/L	11.47	-	11.58	-	11.70	-	11.81	-	11.93	-
軽	km/L		14.63	-	14.78	-	14.92	-	15.07	-	15.22	-	
③ 液化石油ガス(LPG)の削減 (前年度比1%削減)	kg	210	0.3	208	0.3	206	0.3	203	0.3	201	0.3	出社勤務人数	
	(kg-CO ₂)	629	1.0	623	0.9	617	0.9	610	0.9	604	0.9		
④ 二酸化炭素総排出量の削減	(kg-CO ₂)	5,077	-	4,982	-	4,889	-	4,797	-	4,707	-	-	
2	① 一般廃棄物排出量の削減 (前年度比3%削減)	kg	365	0.55	354	0.54	343	0.52	333	0.51	323	0.49	出社勤務人数
		② 産業廃棄物排出量の削減 (前年度比1%削減)	kg	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
3	③ 水の使用量の削減 (前年度比2%削減)	m ³	170	0.258	167	0.253	163	0.248	160	0.243	157	0.238	出社勤務人数
4	④ コピー紙使用量の削減 (前年度比2%削減)	kg	64	-	63	-	61	-	60	-	59	-	-
5	⑤ 製品及びサービスに関する項目(環境配慮) (前年度比1%増)	受託業務件数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※本社購入電力(東京電力)の二酸化炭素排出係数:0.447kg-co₂/kWh (環境経営目標作成時現在)
 ※関西支社購入電力(関西電力)の二酸化炭素排出係数:0.362kg-co₂/kWh (環境経営目標作成時現在)
 ※広島事業所購入電力(中国電力)の二酸化炭素排出係数:0.531kg-co₂/kWh (環境経営目標作成時現在)
 ※本社、関西支社LPG使用なし
 ※燃費は社員が給油時に記録したものであるが、記録漏れ等の理由によりガソリン使用量の総計と数字が完全に一致しない場合がある

重点目標

5. 環境経営計画・環境経営目標の実績及び環境経営計画の取組結果とその評価並びに次年度の取組内容

① 全社

◆活動期間 令和04年9月1日～令和05年8月31日(2022年8月～2023年9月)◆ ○=達成 ×=未達成

No.	推進項目	結果	評価	達成率(%)	未達成原因・達成理由	是正措置 / 改善施策(次年度の取組内容)	
11	(電気使用量の削減)	実績 78,096.0 kWh	×	96.3	・新型コロナウイルスは収束したが、引き続き感染防止対策を励行したため、換気をしつつエアコンを利用することとした。そのため、室内の保温効果が薄れ、電気利用が増えたと考えられる。	各事業所での取り組みを推進し、総会で情報を共有することで意識を高める。	
	目標:前年比2%削減	原単位換算 11.3	×	96.3			
	前年目標 76,741.0 kWh → 目標 75,206.2 kWh 原単位 11.1 → 目標 10.9						
12	(ガソリン使用量の削減)	実績 56,786.6 L	×	86.0	・事業規模(従業員数・受注量)の増加 ・事業規模の増加による車両数の増加	同上	
	目標:前年比1%削減	原単位換算 -	-	-			
	前年目標 49,312.6 L → 目標 48,819.5 L						
	燃費(1%増)	中型	目標 - km/L	実績 -		※各事業所での評価	同上
		普通	目標 - km/L	実績 -			
軽		目標 - km/L	実績 -				
13	(二酸化炭素総排出量の削減)	実績 165,830.3 kg-CO2	×	88.1	・CO2排出量は、主にガソリン使用量に起因する。	同上	
	前年目標 147,933.5 kg-CO2 → 目標 146,119.9 kg-CO2						
21	(一般廃棄物排出量の削減)	実績 3,297.5 kg	○	100.7	・社外業務(外勤)が増加 ・新型コロナウイルス対策のため、タオルの利用を止め、ペーパータオルの利用に切り替えたので、一人当たりのゴミの排出量に関しては増加要因が増えた。 ・しかし、一定割合の在宅勤務を認める方針としたことや、消耗品の節約等により、支社としてのごみ排出量は削減できた。	同上	
	目標:前年比3%削減	原単位換算 0.5	○	100.3			
	前年目標 3,423.0 kg → 目標 3,320.3 kg 原単位 0.50 → 目標 0.48						
22	(産業廃棄物排出量の削減)	実績 869.2 kg	○	262.6	・医療系廃棄物を無駄なく使用し、消毒等して再利用できるものは再利用に努めた。 ・本社の廃棄物排出量の削減効果大きい。	同上	
	目標:前年比1%削減	原単位換算 -	-	-			
3	(水の使用量の削減)	実績 340.0 m ³	○	121.1	・本社、関西支社では達成できなかったが、広島事業所の削減量が大きく貢献した。	同上	
	目標:前年比2%削減	原単位換算 0.05	○	121.6			
4	(コピー紙使用量の削減)	実績 613.0 kg	×	70.7	・全事業所で業務で使う内部資料、アンケート調査等の業務が増えた。	同上	
	目標:前年比2%削減	原単位換算 -	-	-			
5	(製品及びサービスに関する項目(環境配慮))	実績 192.0 件	×	99.0	・1件あたりの事業規模が拡大する傾向があるため積極的な受注件数拡大には取り組まなかった。	同上	
	目標:前年比1%増	原単位換算 -	-	-			

注:化学物質(PRR対象のもの)を使用していないので環境目標から外した。

※本社購入電力(東京電力)の二酸化炭素排出係数:kg-co2/kWh。令和4年度の温室効果ガス排出量を算定する際に用いる係数です(報告は令和5年度)。

※関西支社購入電力(関西電力)の二酸化炭素排出係数:令和2年度の電気事業者ごとの基礎排出係数・調整後排出係数等の公表について | 報道発表資料 | 環境省 (env.go.jp/kg-co2/kWh)。令和4年度の温室効果ガス排出量を算定する際に用いる係数です(報告は令和5年度)。

※広島事業所購入電力(中国電力)の二酸化炭素排出係数:kg-co2/kWh。令和4年度の温室効果ガス排出量を算定する際に用いる係数です(報告は令和5年度)。

※本社、関西支社LPG使用なし

② 本社

◆活動期間 令和04年9月1日～令和05年8月31日(2022年8月～2023年9月)◆ ○=達成 ×=未達成

No.	推進項目	結果	評価	達成率(%)	未達成原因・達成理由	是正措置 /改善施策(次年度の取組内容)
10	(電気使用量の削減)	実績 51,710 kWh	×	94.4	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの収束にともなう出社率の増加 感染防止のための定期的な換起の実施、同時にエアコンは稼働させていることによる電気料金の増加 	<ul style="list-style-type: none"> エコ普及ステッカーによる意識向上 労務管理の改善による夜間残業時間の軽減 センサー式ライトの導入、不要照明の消灯の励行 クールビズ、ウォームビズを推進 パソコン、コピー機の主電源OFFの励行 在宅勤務の推進
	目標:前年比2%削減	原単位換算				
	前年目標 49,831 kWh → 目標 48,834 kWh 原単位 9.8 → 目標 9.6	102	×	94.3		
12	(ガソリン使用量の削減)	実績 22577.33 L	×	74.4	<ul style="list-style-type: none"> 事業規模(従業員数・受注量)の増加 事業規模の増加による車両数の増加 	<ul style="list-style-type: none"> エコカー(移動用・軽作業用)の配備を検討 公共交通機関の利用促進 燃費確認ができるツールの導入
	目標:前年比1%削減	原単位換算				
	前年目標 16,958 L → 目標 16,788 L	-	-	-		
13	(二酸化炭素総排出量の削減)	実績 75,531 kg-CO2	×	80.5	<ul style="list-style-type: none"> 1①,1②の改善施策の推進 普通車両の老朽化にともなう燃費の低下が考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ガソリン使用量の削減を重点課題とし、エコドライブを意識の普及啓発に努める エコカー配備の検討 取組の継続
	前年目標 61,649 kg-CO2 → 目標 60,810 kg-CO2	原単位換算				
	中型 目標 所有なし → 目標 所有なし km/L	実績				
	普通 目標 10.68 → 目標 10.78 km/L	実績	×	94.1		
	軽 目標 13.81 → 目標 13.94 km/L	実績	×	99.6		
20	(一般廃棄物排出量の削減)	実績 2245 kg	○	132.1	<ul style="list-style-type: none"> 事業規模(従業員数・受注量)の増加に伴い、社外業務が増加にともない達成 在宅勤務の推奨により廃棄物量の軽減に寄与 調査に必要な消耗品の増加 	<ul style="list-style-type: none"> リサイクルの推進 ペーパーレス化促進 計画的な物品購入の励行 紙類等の再利用、リサイクル促進
	目標:前年比3%削減	原単位換算				
	前年目標 3,058 kg → 目標 2,966 kg 原単位 0.60 → 目標 0.58	0.4	○	131.2		
22	(産業廃棄物排出量の削減)	実績 835.2 kg	○	271.9	<ul style="list-style-type: none"> 不要な廃棄物をなるべく排出しないプロジェクト運営の推進 再利用の励行 	<ul style="list-style-type: none"> 取組の継続
	目標:前年比1%削減	原単位換算				
	前年目標 2,294 kg → 目標 2,271 kg	-	-	-		
3	(水の使用量の削減)	実績 134 m ³	×	91.8	<ul style="list-style-type: none"> 事業規模(従業員数)の増加 新型コロナウイルス収束にともなう出社率の増加により使用料が増加したと思われる 	<ul style="list-style-type: none"> 節水意識の向上のための普及活動
	目標:前年比2%削減	原単位換算				
	前年目標 125.0 m ³ → 目標 123.0 m ³ 原単位 0.025 → 目標 0.024	0.03	×	90.9		
4	(コピー紙使用量の削減)	実績 436 kg	×	62.8	<ul style="list-style-type: none"> 検討会や協議会等の会議業務の増加にともない紙資料の印刷量が増加 年度末の報告書印刷の試し刷りによるコピー紙の使用料が増加しやすい 	<ul style="list-style-type: none"> 電子データによる管理(ペーパーレス化)を推進する 裏紙の再利用を引き続き推進する 印刷前に内容を確認し、ミスプリントをしないよう注意する 両面印刷の徹底
	目標:前年比2%削減	原単位換算				
	前年目標 280.0 kg → 目標 274.0 kg	-	-	-		
5	(製品及びサービスに関する項目(環境配慮))	実績 64 件	○	104.9	<ul style="list-style-type: none"> 継続業務が多く、業務数は減ったが、1件あたりの業務規模が増えたものもある 研修・教育により、クライアントから信頼を得られる職員が増えた 	<ul style="list-style-type: none"> 業務成果の質の向上等に努める 人材の確保、育成によりニーズに貢献できる社内体制を構築する
	目標:前年比1%増	原単位換算				
	前年目標 60 件 → 目標 61 件	-	-	-		

注:化学物質(PRR法対象のもの)を使用していないので環境目標から外した。
※本社購入電力(東京電力)の二酸化炭素排出係数:kg-co2/kWh。令和4年度の温室効果ガス排出量を算定する際に用いる係数です(報告は令和5年度)。

③ 関西支社

◆活動期間 令和04年9月1日～令和05年8月31日(2022年8月～2023年9月)◆ ○=達成 ×=未達成

No.	推進項目	結果	評価	達成率(%)	未達成原因・達成理由	是正措置 /改善施策(次年度の取組内容)	
11	(電気使用量の削減)	実績 19,347.0 kWh	×	93.9	・新型コロナウイルスは収束したが、引き続き感染防止対策を動 行したため、換気をしつつエアコンを利用することとした。そのた め、室内の保温効果が薄れ、電気利用が増えたと考えられる。	・高温になる前に、低すぎない程度の温度に設定して、早めに 冷房を入れたほうが作業の能率はあがり結果的に残業の抑制 につながる ・小まめにエアコンのON/OFFはせずに、入れっぱなしにして おく。 ・パソコン、コピー機の主電源OFFの励行 ・不要照明の消灯の励行 ・エコ音及ステッカーによる意識向上	
	目標:前年比2%削減	原単位換算 16.8	×	93.9			
	前年目標 18,533.0 kWh → 目標 18,162.3 kWh 原単位 16.1 → 目標 15.7						
12	(ガソリン使用量の削減)	実績 34,209.3 L	×	93.6	・現地調査等に必要な車の台数が増え、ガソリン消費量が増え ることにつながった。	・ハイブリットカーを1台導入したが、追加配備につい ても検討する。 ・スピードを出し過ぎないよう、余裕をもって出発す るようにする。 ・高速道路は可能な限り一定の速度で走行する (エコドライブの習慣づけ)	
	目標:前年比1%削減	原単位換算 -	-	-			
	前年目標 32,354.6 L → 目標 32,031.1 L						
13	(燃費(前年度比1%増加))	-	-	-	・燃費の見える化、エコドライブへの意識強化により、全車種で 燃費目標を達成することができた。	・エコドライブは安全運転の観点からも重要であること から、今後も意識を高く持つよう普及啓発する。 ・エコカーの配備を検討する。	
	中型	目標 7.4 → 目標 7.47 km/L	実績 8.1	○			108.43
	普通	目標 11.47 → 目標 11.58 km/L	実績 13.64	○			117.79
	軽	目標 14.63 → 目標 14.78 km/L	実績 15.14	○			102.44
13	(二酸化炭素総排出量の削減)	実績 86,426.0 kg-CO2	×	93.7	・CO2排出量は、主にガソリン使用量に起因する。	・ガソリン使用量の削減を重点課題とし、エコドライブ を意識する。	
	目標:前年比3%削減	原単位換算 -	-	-			
	前年目標 81,836.0 kg-CO2 → 目標 80,951.0 kg-CO2						
21	(一般廃棄物排出量の削減)	実績 817.5 kg	○	106.8	・新型コロナウイルス対策のため、タオルの利用を止め、ペー パータオルの利用に切り替えたので、一人当たりのゴミの排出量 に関しては増加要因が増えた。 ・しかし、一定割合の在宅勤務を認める方針としたことや、消耗 品の節約等により、支社としてのごみ排出量は削減できた。	・物品の在庫管理を徹底し、無駄な購入を控える。 ・食器の共有化、弁当・マイボトルを推奨する。	
	目標:前年比3%削減	原単位換算 0.7	○	107.3			
	前年目標 900.0 kg → 目標 873.0 kg 原単位 0.780 → 目標 0.760						
22	(産業廃棄物排出量の削減)	実績 24.0 kg	×	49.6	・動物の捕獲処理業務が増えたことにより、使用する医療廃棄物 の量が増加した。	・職員の技術向上により、医療器具の使用量を削減す る。 ・無駄な廃棄がないよう、在庫管理を徹底する。	
	目標:前年比1%削減	原単位換算 -	-	-			
	前年目標 12.0 kg → 目標 11.9 kg						
3	(水の使用量の削減)	実績 149.0 m ³	×	82.6	・CSF蔓延防止対策により車両、物品の洗浄頻度が増えた。 ・事務所から水を運搬して現場で使用する業務が増えた。	・水道蛇口に注意喚起のための看板を設置する。 ・無駄のないように計画的に水を運搬する。	
	目標:前年比2%削減	原単位換算 0.13	×	82.1			
	前年目標 125.0 m ³ → 目標 123.0 m ³ 原単位 0.108 → 目標 0.106						
4	(コピー紙使用量の削減)	実績 117.0 kg	×	82.1	・調査票を使用する業務が増えたことにより、紙の印刷量が増え た。	・電子データによる管理(ペーパーレス化)を推進す る。 ・裏紙の再利用を引き続き推進する。 ・印刷前に内容を確認し、ミスプリントをしないよう注意 する。	
	目標:前年比2%削減	原単位換算 -	-	-			
	前年目標 98.0 kg → 目標 96.0 kg						
5	(製品及びサービスに関する項目(環境配慮))	実績 128.0 件	×	96.2	・1件あたりの受注量が増えたため、受注件数を抑えた。	・業務成果の質の向上等に努めつつ、効率化を図る。 ・人材の確保、育成によりニーズに貢献できる社内体 制を構築する。	
	目標:前年比1%増	原単位換算 -	-	-			
	前年目標 132.0 件 → 目標 133.0 件						

注:化学物質(PRTR法対象のもの)を使用していないので環境目標から外した。

※関西支社購入電力(関西電力)の二酸化炭素排出係数、令和2年度の電気事業者ごとの基礎排出係数・調整後排出係数等の公表について | 報道発表資料 | 環境省 (env.go.jp)kg-co2/kWh。令和4年度の温室効果ガス排出量を算定する際に用いる係数です(報告は令和5年度)。

④ 広島事業所

◆活動期間 令和04年9月1日～令和05年8月31日(2022年8月～2023年9月)◆ ○=達成 ×=未達成

No.	推進項目	結果	評価	達成率(%)	未達成原因・達成理由	是正措置 / 改善施策(次年度の取組内容)	
10	(電気使用量の削減)	実績 7,039.0 kWh	○	116.6	<ul style="list-style-type: none"> ・事業拡大とともに外勤業務が増えた ・つけっぱなしの電気を事務担当者が積極的に消した ・複合機にヒーターを取り付けたことにより、除湿機の稼働時間が減った ・各部屋にサーキュレーターを配置し、各部屋の整理整頓を心がけ、事業所全体の風通りを良くしたことにより、冷房の設定温度を上げることができた ・会議で各部署の電気使用量の情報を公開し、職員の意識を向上させた 	<ul style="list-style-type: none"> ・高温になる前に、低すぎない程度の温度に設定して、早めに冷房を入れたほうが作業の能率はあがり結果的に残業の抑制につながる ・残業量を減らす ・小まめにエアコンのON/OFFはせずに、入れっぱなしにしておく。 	
	目標:前年比2%削減	原単位換算 10.7					
	前年目標 8377.0 kWh → 目標 8209.0 kWh 原単位 12.7 → 目標 12.5						
12	(ガソリン使用量の削減)	実績 0.0 L	-	-	※関西支社として集計しているため数値なし	<ul style="list-style-type: none"> ・ハイブリットカーを1台導入したが、追加設備についても検討する。 ・スピードを出し過ぎないよう、余裕をもって出発するようにする。 ・高速道路は可能な限り一定の速度で走行する(エコドライブの習慣づけ) 	
	目標:前年比1%削減	原単位換算 -					
	前年目標 - L → 目標 - L						
13	(燃費(前年度比1%増加))	-	-	-	※関西支社として集計しているため数値なし		
	中型	目標 7.4 → 目標 7.47 km/L	実績 8.1	○			108.43
	普通	目標 11.47 → 目標 11.58 km/L	実績 13.64	○			117.79
	軽	目標 14.63 → 目標 14.78 km/L	実績 15.14	○			102.44
13	(液化石油ガス(LPG)の削減)	実績 45.1 kg-CO2	○	460.9	<ul style="list-style-type: none"> ・食器洗い時はこまめに水道を止めた ・キッチンの水道の蛇口にシャワーノズルを取り付け水量を調節できるようにした ・ガスコンロをこまめに掃除した ・ガス使用量について会議で情報公開を行い、職員の意識を向上させた 	<ul style="list-style-type: none"> ・社宅を借り、事業所での寝泊まりを是正する ・お風呂を使用する際のルールを取り決める ・食器洗い時は洗剤をつけすぎない ・ガスコンロの火力を強火から中火にする ・調理時は蓋、落し蓋を使用する ・食材の下茹では電子レンジを活用する ・湯沸かし器の設定温度を42度から38度に設定する 	
	目標:前年比1%削減	原単位換算 0.1					
	前年目標 210.0 kg-CO2 → 目標 208.0 kg-CO2 原単位 0.3 → 目標 0.3						
14	(二酸化炭素総排出量の削減)	実績 3,873.1 kg-CO2	○	2,090.1	CO2排出量は、主にガソリン使用量に起因する。	ガソリン使用量の削減を重点課題とし、エコドライブを意識する。	
	目標:前年比3%削減	原単位換算 -					
	前年目標 81836.0 kg-CO2 → 目標 80951.0 kg-CO2 原単位 - → 目標 -						
20	(一般廃棄物排出量の削減)	実績 235.0 kg	○	371.5	<ul style="list-style-type: none"> ・事業拡大に伴い、物品の購入量が増加した ・事業拡大に伴い、来客者数も増加した ・事業拡大に伴い、事業所内で業務を行うアルバイトを雇用した ・事業所内の風通しを良くするため、整理整頓を行った ・清掃をこまめに行った ・庭の手入れもこまめに行った 	<ul style="list-style-type: none"> ・社宅を借り、事業所での寝泊まりを廃止する ・物品の在庫管理を徹底し、無駄な購入を控える。 ・食器器具の共有化、弁当・マイボトルを推奨する。 	
	目標:前年比3%削減	原単位換算 0.4					
	前年目標 900.0 kg → 目標 873.0 kg 原単位 0.78 → 目標 0.76						
22	(産業廃棄物排出量の削減)	実績 10.0 kg	-	-	-	-	
	目標:前年比1%削減	原単位換算 -					
	前年目標 - kg → 目標 - kg						
3	(水の使用量の削減)	実績 57.0 m ³	○	215.8	<ul style="list-style-type: none"> ・キッチンの水道蛇口にシャワーノズルを取り付け、水量を調節できるようにした ・土日祝日に滞在する職員の滞在時間、洗濯回数が減少した ・事業拡大に伴い、外勤者数が増加した ・ポットの湯量を出勤者数に合わせて調節した ・コーヒーマーカーの分量を出勤者数に合わせて調節した 	<ul style="list-style-type: none"> ・水道蛇口に注意喚起のため引き続き看板を設置する。 ・無駄のないように計画的に水を運搬する。 ・ポットの湯量、コーヒーマーカーの分量、麦茶の分量に引き続き、注視する ・洗濯時の水量をこまめに調節する 	
	目標:前年比2%削減	原単位換算 0.1					
	前年目標 125.0 m ³ → 目標 123.0 m ³ 原単位 0.108 → 目標 0.106						
4	(コピー紙使用量の削減)	実績 60.0 kg	○	160.0	<ul style="list-style-type: none"> ・事業拡大に伴い、コピー紙の使用量が増加した ・研修関連業務が増加し、参加者に配布する紙資料を印刷する機会が増加した ・業務数が増加し、提出する報告書数が増加した 	<ul style="list-style-type: none"> ・電子データによる管理(ペーパーレス化)を推進する。 ・裏紙の再利用を引き続き推進する。 ・印刷前に内容を確認し、ミスプリントをしないよう注意する。 	
	目標:前年比2%削減	原単位換算 -					
	前年目標 98.0 kg → 目標 96.0 kg						
5	(製品及びサービスに関する項目(環境配慮))	実績 0.0 件	-	-	※関西支社として集計しているため数値なし	※関西支社として集計しているため数値なし	
	目標:前年比1%増	原単位換算 -					
	前年目標 - 件 → 目標 - 件						

注:化学物質(PRR法対象のもの)を使用していないので環境目標から外した。

※広島事業所購入電力(中国電力)の二酸化炭素排出係数:kg-co2/kWh。令和4年度の温室効果ガス排出量を算定する際に用いる係数です(報告は令和5年度)。

◆ 本社・関西支社での環境経営計画に基づく取組内容 ◆

WMOエコアクション21 取組紹介

再利用率は高い

裏紙の再利用



コピー用紙として再利用



メモ帳として再利用

ダンボールの再利用



段ボール製の看板

使用済みクリアファイルの再利用



ナイロン袋の再利用



使用済み封筒の再利用



緩衝材の再利用



乾電池の再利用



電池は捨てずに残量チェックをして再利用しています

資源ゴミを分別・回収しリサイクルしています



新聞紙や包装紙も捨てずに再利用しています。

ビン・缶・ペットボトルの分別・回収

エコなオフィスワークを推進しています



共用品を配備

お弁当・マイボトルの持参
プラスチック・紙皿・紙コップ等のゴミを削減



調査機材の整理整頓
⇒無駄な物品の購入を予防
資材の管理も再利用ダンボールで



カレンダーの
綺麗な写真を再利用して景観UP



太陽光発電の導入

エコな空調管理



ドアのこまめな開け閉め



Warm Biz



天井サーキュレーター



エアコンフィルターの
掃除・交換

エコ活動を普及啓発しています



スイッチ周りのパネルで注意喚起

エコドライブの普及啓発

エコドライブ10のすすめ

- ① ふんわりアクセル「eスタート」
- ② 車間距離にゆとりをもって、加速・減速の少ない運転
- ③ 減速時は早めにアクセルを離そう
- ④ エアコンの使用は適切に
- ⑤ ムダなアイドリングはやめよう
- ⑥ 渋滞を避け、余裕をもって出発しよう
- ⑦ タイヤの空気圧から始める点検・整備
- ⑧ 不要な荷物はおろそう
- ⑨ 走行の妨げとなる駐車はやめよう
- ⑩ 自分の燃費を把握しよう

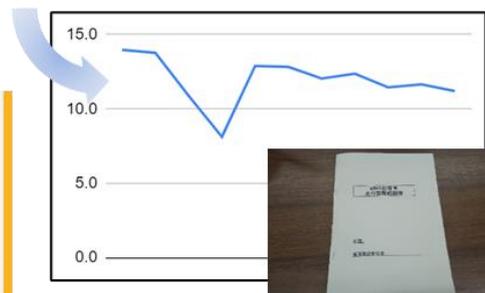


WMOエコアクション環境目標

1. CO2排出量の削減
2. 廃棄物排出量の削減
3. 資源の投入
4. 水の使用料の削減
5. 製品及びサービスに関する項目



社員全体で活動結果と目標の共有
2022年6月 WMO総会(WEB)にて成果報告



ガソリン燃費の「見える化」
でエコドライブ意識向上

7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反・訴訟等の有無

担当部門	法的要求事項等の名称	監視・測定項目 (適用施設・業務等)	法的要求事項の内容及び基準	監視・測定プロセス、使用機器等	遵守状況
総務部	廃棄物の処理及び清掃に関する法律	廃プラスチック類、 金属くず、ゴム屑、 ガラスくず及び陶磁器くず、 廃酸、廃アルカリ 感染性廃棄物	産業廃棄物保管基準の遵守	—	○
			産業廃棄物の収集、処理委託基準の遵守	委託契約書	○
			特別管理産業廃棄物保管基準の遵守	—	○
			特別管理産業廃棄物の収集、処理委託基準の遵守	委託契約書	○
			特別管理産業廃棄物管理責任者の設置	—	○
			産業廃棄物管理票交付等状況報告書	—	○
			産業廃棄物管理票による管理	マニフェスト伝票	○
事業部	フロン排出抑制法	業務エアコン、冷凍冷蔵庫	廃棄の場合のフロンの適切な処置 簡易点検	—	○
事業部	家電リサイクル法	エアコン、テレビ、 冷蔵庫、洗濯機、電気冷凍庫	特定家庭用機器の長時間使用と適切な廃棄	—	○
事業部	自動車リサイクル法	普通自動車	自治体の登録を受けた引取業者への廃車の引渡し義務 新車購入時又は車検時における再資源化等料金(リサイクル料金)等の預託	—	○
総務部	グリーン購入法		環境物品等の調達努力	—	○
事業部	毒物及び劇物取締法	硝酸	毒物及び劇物についての取締の遵守	管理帳簿・MSDS	○
事業部	麻薬及び向精神薬取締法	ケタミン	麻薬及び向精神薬についての取締の遵守 麻薬研究者の届出	管理帳簿・MSDS	○
総務部	消防法		消化器の設置、火災警報設備の設置	—	○
事業部	生物多様性基本法		事業者の責務（事業活動を行うに当たって、事業活動が生物の多様性に及ぼす影響を把握するとともに、他の事業者その他の関係者と連携を図りつつ生物の多様性に配慮した事業活動を行うこと等により、生物の多様性に及ぼす影響の低減及び持続可能な利用に努めること）等	—	○
事業部	環境基本法		事業者の責務（事業活動を行うに当たって生ずるばい煙、汚水、廃棄物等の処理その他の公害を防止し、又は自然環境を適正に保全するために必要な措置を講ずること、環境の保全上の支障を防止するため、物の製造、加工又は販売その他の事業活動を行うに当たって、その事業活動に係る製品その他の物が廃棄物となった場合にその適正な処理が図られることとなるように必要な措置を講ずること、環境への負荷の低減その他環境の保全に自ら努めること）	—	○
事業部	自然環境保全法		自然環境の適正な保全が図られるように努めること、自然環境の保全に当たって、関係者の所有権その他の財産権を尊重するとともに、国土の保全その他の公益との調整に留意すること、原生自然環境保全地域・自然環境保全地域の保護規制の遵守	—	○
事業部	自然公園法		自然公園の保護及び利用の規制の遵守	—	○
事業部	鳥獣保護管理法		鳥獣の捕獲等々の規制(捕獲許可申請)、狩猟免許	—	○
事業部	外来生物法		特定外来生物の飼養、栽培、保管又は運搬、輸入その他の取扱いに関する規制の遵守、特定外来生物の防除	—	○
事業部	種の保存法		個体等の取扱いに関する規制の遵守	—	○
事業部	文化財保護法		現状変更等の制限(現状変更許可申請)	—	○
事業部	森林法		保安林における制限(保安林内作業許可申請)	—	○

環境関連法規等の遵守状況を確認し評価した結果、環境関連法規等への違反・訴訟は過去3年間ありません。

並びに関係当局よりの違反等の指摘も過去3年間ありません。又、近隣からの苦情等はありません。

8. 代表者による全体評価と見直しの結果

(1) 全体評価

2015年3月にエコアクション21(EA21)の認証を受け、本社では8年、関西支社では7年が経過しました。また、2020年6月に開設した広島事業所については、前期実績を基準に目標を設定し、初めて達成状況を評価しました。

前期までは、新型コロナウイルス感染症の感染状況が拡大と縮小を繰り返すなか、社内におけるクラスター発生を抑止するため、引き続いて基本的な感染対策はもとより、出社制限(在宅勤務)、時差出勤の実施、公共交通機関の利用抑制、感染対策資材の適切な利用など必要な対策を行ってきました。また、野外業務においても会社の行動指針に基づく感染対策の徹底を図ってきました。その結果、家庭内感染などに由来する単発的な感染は発生したものの、社内における集団感染を起こすことなく乗り切ることができました。これはひとえに社員の協力の賜といえます。

今期における各環境目標項目の具体的な評価については後段に記しますが、新型コロナウイルスが5類に移行したことを受け、弊社でも通常通りの業務形態、労働環境へと戻りつつあります。それに伴い、今期につきましては目標項目の未達が見られました。また受託業務量につきましても少しばかりですが減少しています。しかし、弊社への業務相談は多く、野生動物管理における弊社への社会的要請は高まっていることから、社員数の増員を図り人材育成と体制構築に力を注いでいるところです。現在は数年先の組織体制の充実を見据え、我慢の時にあると考えております。

各事業所単位でみると、本社では電気使用量、ガソリン使用量、水の使用量、コピー紙使用量において、目標を達成することができませんでした。出社人数がコロナ前に戻りつつあり、社屋で業務を行う人が増加しことに原因があると考えています。関西支社においても同様の指標に加えて、産業廃棄物排出量で目標の達成ができませんでした。一方で、出社制限を実施しなかった広島事業所においては、すべての項目において、目標を達成することができました。出社制限解除とともに目標設定の見直し、もしくは削減のための方策について検討すべきであったのではないかと振り返ることができます。

(2) 各推進項目の結果と評価・見直し

- ① 電力使用量については、全社的には総量でも原単位換算でも削減目標を達成できなかった。出社人数の増加による使用量の増加が考えられます。改めて、節電意識を高めた取り組みを図っていかねばならない。
- ② ガソリン使用量については、総量でも原単位換算でも削減目標を達成できなかった。当社事業において車は業務に欠かせない機材であり、事業規模の増大とそれに伴う社有車の増加に伴う使用量の増加は避けがたい項目であるが、引き続きエコドライブの励行、燃費性能の優れた自動車の導入など会社全体としての取組を強化していく。
- ③ 廃棄物排出量については、一般廃棄物排出量は全ての部署で目標を達成することができた。一方、産業廃棄物については、関西支社を除く部署で目標を達成することができた。引き続き廃棄物の削減に努めていく。また、これまでと同様に3R(リデュース、リユース、リサイクル)の促進、適切な使用方法の周知による機材の耐用年数向上のほか、エコバッグの活用、社員の技術向上による医療器具使用量の削減など、社員個々の取り組みの積み重ねによる削減も促していく。
- ④ 水使用量については、広島事業所を除く部署において、総使用量及び原単位換算目標を達成することができなかった。出社人数の回復によるトイレの使用量等の影響によるものと思われる。引き続き社内の節水意識を高めていく。
- ⑤ コピー紙使用量については、広島事業所を除いて総量、原単位換算ともに削減目標を達成することができなかった。これは受託業務内で開催する検討会、協議会等がオンライン開催から対面開催へと戻りつつあり、会議資料を準備することが増加したことも要因ではないかと考える。外部への資料については積極的な削減は難しいが、引き続き社内資料の電子ファイル化、両面コピーや裏紙の利用促進など削減の徹底を図っていく。

- ⑥ 受託事業件数を指標としている製品及びサービスに関する項目については、今年度は会社全体として目標を超えることができなかった。冒頭にも書いた通り、人材育成と体制構築に力を注いでおり、業務過多に起因する成果の質低下に陥らないように努めている。受託量の増加を意識的に抑制して成果・サービスの質の維持・向上を図っているところである。ただし、新型コロナ感染による人の行動変容や社会活動の停滞も影響して、野生動物問題は拡大しており、我々の活躍の場は増えている。そのような社会からの要請に応えられるよう、人材育成の取り組みを促進して量だけでなく質の高いサービスを提供できるよう努力していく。

(3) 次年度の EA21 環境経営システムの変更可否判断

新型コロナ感染症が 5 類に変更され、社会が元に戻りつつある中で、弊社としてもコロナ前の体制に戻っている部分があれば、コロナを受けて変更した仕組みもある。現在はそれらの仕組みを定着させ、人材育成と組織体制の強化を図っているところである。そのため、不確定要素がある中においては現在の環境経営方針にある環境目標、環境活動計画等の EA21 環境経営システムの大きな方向性は変更しない。現在 EA21 ガイドライン 2017 年版に沿って取り組んでいるが、環境目標項目の達成のみならず、環境経営の具現化、促進を通して社会の持続的成長に貢献する会社としての成熟を図っていく。

ポスト新型コロナ感染症になりつつあり、これまで以上に環境負荷について考えて、業務にあたらなければならないと感じています。そのために EA21 に基づく環境経営方針に沿った経営を継続していくことは当然ですが、持続可能な社会の実現のため、我々が野生動物問題の課題解消にどのように向き合っていくか、業務を継続する中で新たな観点をどのように組み込んでいくか、その実現のために最適な組織運営は如何にあるべきか、会社としても新たな姿を模索しつつ持続可能な社会の実現に向けて取り組んでいきます。特に、現在進行中である人口減少と過疎高齢化、地球温暖化による自然環境の変化は野生動物の問題に直結します。こういった背景にある要因にもしっかり目を向けて、これまで同様、我々の担う業務が自然資本の増強に資することを自覚し、人的資本、知的資本、社会・関係資本の向上に取り組んでいきます。